

2013年度自閉症セミナー フォローアップ アンケート

職種	セミナー各講座の中で、現場に生かすことのできた内容にはどののうなものがあるか	なかなか実践に生かすことが難しいとすれば、どのような理由が考えられるか	講師コメント
	<p>長瀬先生のプランシートに事例を当てはめて、現場のスタッフで一緒に対策を考え、また、スタッフの協力の一致を計ることができ、その結果問題が軽減されました。</p>	<p>親とのコミュニケーションのとり方が難しく思います。どのように普段接しておられるのかが分かりません。自閉症の子を持つ親の心境としてあまり外部と接触したくないのでしょうか。こちらから連絡してもいいものか、迷います。</p>	<p><b>長瀬先生:</b> プランシートのご活用、ありがとうございます。プランシート以外の問題改善につながるツールは、『井上雅彦』『小笠原恵』のキーワードで検索なされると、両先生(大学の先生です)のHPから入手できます。 <b>武藤先生:</b> 自閉症の親と、ひとくりにすることはできません。その親御さんはどうか、だと思えます。あなたの迷いも伝えた上で家での情報をお聞きになってはいかがでしょうか？</p>
支援員	<p>今回の研修を通して、応用行動分析の意図や方法に関して、理解をより深めることができました。障害者支援施設で毎日利用者の支援を行っている、様々な問題行動を目にしますが、研修で学んだことを生かして、「その行動の背景にあるもの(原因)は何か？」をよく吟味して仮説を立てながら考えるよう意識しています。今後も最新の理論や実践を学びながら、日々の支援に生かせるよう努めていきたいと思えます。</p>	<p>インシデントプロセス法によるケースカンファレンスは、会議に提出された問題行動の事例について対策をチームで考え、結論を出す上で大変有効な方法であることが分かりました。しかし、実際の現場では、日々の業務の中で事例を検討する時間が取りにくく、実践するのは難しいと感じました。</p>	<p><b>長瀬先生:</b> 応用行動分析学の意図や方法を理解していただき、ありがとうございます。まずは現場で、改善しやすいと思われる行動問題に取り組み、その実践をまとめられることをお勧めします。 <b>武藤先生:</b> いつも、その人の行動の背景にあるものに思いを巡らせることは本当に大切です。時間がなくて大変だろうと思います。意識的に月に1回1時間を確保することはできませんか？</p>
生活支援員	<p>先生から「支援はエスコートだ」と教わったこと、日々の支援の中で思い出し自分の行動を正しています。 2日目に私の持ってきた事例を取り上げていただきました。行動問題をなくすために少しずつ取り組んで成果を出せてきています。</p>	<p>職員不足により、なかなか実践できない。</p>	<p><b>長瀬先生:</b> 「支援はエスコート」私が言った言葉ですね。今日も最大限の注意を払い、エスコートしてきました。 <b>武藤先生:</b> 人手不足は慢性的にみられる課題ですね。それでも主体は利用者が何を思ったり感じてそうしているのか、利用者の見方で検討してみることだと思います。その時、利用者の発達を知ること役立つ視点だと思います。</p>

2013年度自閉症セミナー フォローアップ アンケート

職種	セミナー各講座の中で、現場に生かすことのできた内容にはどののうなものがあるか	なかなか実践に生かすことが難しいとすれば、どのような理由が考えられるか	講師コメント
	<p>講座に参加し、仕事場での各場面や状態の見方が変わり日々の変化や情報の収集に役立っていると感じますが、まだ理解や実践方法が分からず現場で各職員が共有して生かせる段階まで行っていません。</p>	<p>当施設では重度の利用者が多くどういったアプローチで実践すればよいのか悩みます。</p>	<p><b>長瀬先生</b>: 具体的なアプローチ、講師陣の誰かを施設に呼ばれて、直接OJTを受けられるのが一番の早道です。  <b>武藤先生</b>: 認識が3歳くらいだと(StageⅢ-1かⅢ-2)成人では最重度になってしまいます。それに生活経験で学んでいることが強固にこだわりになっていたりしますので、その方を理解するのに混乱するかもしれません。太田ステージで認知レベルを把握すると、理解してやっている行動なのか、こだわりの習慣行動なのか見分けがつけられると思います。</p>
生活指導員	<p>2日目の長瀬慎一講師のセッションで利用者の体の起こし方がとても勉強になり、現在支援の中で使わせていただいています。また、誘導の際にも腕を引っぱって行くなどではなくて、背中を手のひらで押してあげるということも教えていただきました。</p>	<p>会社全体で理解し合い少しずつ変えて行かなければ何も変化しないと思います。それぞれの施設でやり方が違うと思うので、徐々に太田ステージなどを取り込めないとなってしまう。</p>	<p><b>武藤先生</b>: 認知のレベルを共通理解しておくことで、利用者と指導者(支援者)両方のストレスを減らせると思います。少しずつ仲間を増やし一部からでも変えていってください。</p>
年に数回ボランティア	<p>●行動問題を起こさざるを得ない状況に置かれている自閉症の方々が一番辛い。「行動を止める」より「なぜだろう?」と仮説を立てる意識を持つよう努力中です。          ●(視覚的支援といっても)太田ステージのどの段階にあるのか理解することが大切。(具体物?写真?絵?文字?指示的内容ばかり?)本人の安定になっているか?          ●刺激となっている対象物を視覚的に見えなくするか環境から遠ざける</p>	<p>●心身共に健康状態に波がある。          ●十分に時間がない          ●良い実践をされている方々が多ければ相談しやすいですが…慣習に疑問を持って「うちは今までこのやり方でやっている、余計な口出し手出しするな等」の空気が流れている。人間関係が崩れるとその場にいられなくなる⇒施設内虐待の一步だと感じる。(多様な利用者様に職員数が少ない)          ●瞬時に理解できず「壁・ドア」になれない</p>	<p><b>武藤先生</b>: 当たり前とされてしまっていることに疑問をぶつけていくことは人間関係の信頼がないところでは大変ですね。一人でも、2人でもそういう信頼できる仲間はいませんか?</p>

職種	セミナー各講座の中で、現場に生かすことのできた内容にはどのようなものがあるか	なかなか実践に生かすことが難しいとすれば、どのような理由が考えられるか	講師コメント
生活指導員	個人的ではあるが、応用行動分析学(ABA)の事例VTRにより、支援者の適切な誘導(立ち位置)を意識するようになった。又、「その行動に至る要因」を、当事者の障がいを理由にせずに環境も含めて分析し、探っていくことを考えるようになった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●セミナーで得たものを職場内で共有できない。</li> <li>●職場内(支援員)の支援技術標準化のためのOJTが進んでいない。</li> <li>●利用者の高齢化により問題行動の内容も日々変化しており、対応が難しいこと。</li> </ul>	<p>長瀬先生:「その行動に至る要因」を環境要因を含めて分析する視点を持たれたことは、素晴らしいことだと思います。次は是非、ご自身の関わり方を録画して分析してみてください。</p> <p>武藤先生:職場内に一人でも二人でも分かってくれる仲間を! 自分が支援を受ける立場だったら、その誘導のされ方をどう感じるか、相手の視点で考えてみることは基本ですね。高齢化も大きな問題です。私もまだ分からないので教えて欲しいです。</p>
常勤嘱託職員(生活指導員)	応用行動分析学についての講座での、「その行動に至る要因」を見出そうとする支援の話を受け、現場で起こる様々な利用者の行動において、その行動を引き起こす要因について考えることができるようになった。	<p>&lt;個人的理由&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一職員としての声が小さい</li> <li>・セミナーの内容を十分に理解していない</li> <li>・セミナーの内容を報告書としてうまく文書化できなかった</li> </ul> <p>&lt;他職員に考えられる理由&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告書の内容がよく理解できないままになっている</li> </ul> <p>&lt;施設として考えられる理由&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで長くやってきた方法等を変えられない</li> <li>・新しい方法を受け入れることが難しい</li> </ul>	<p>長瀬先生:応用行動分析学の本質を理解していただき、ありがとうございます。まずは研修の話に興味を示してくださるお仲間と事例検討などをなさってはいかがでしょうか。</p> <p>武藤先生: 講座で「利用者さんの行動に至る原因を見出す」というポイントを学んでくださったはとても大切です。施設で今まで長くやってきた方法を受け入れることが難しいのは、批判されているという思いになるからでしょうか。千葉県で起こった施設の虐待もその「変えられないという思い」が蔓延したせいではないでしょうか?是非発達も含めた視点から利用者がそうせざるを得ない原因を検討してくださるようお願いしています。</p>
事務局員	全体的に今すぐ現場の中で生かせなくても、個別にしっかり理論を学んでいけばあらゆる場面で生かせる内容であったと思う。しかし、特に生かしやすかったものは、「ABAとその応用」「OJTと効果的な～」だった。「ABA」の講義は動画や写真を多用していたのでイメージが付きやすかったのが要因だと思う。「OJT」は実例に基づくクイズ形式etc.、自分の頭で考えるチャンスがあったのが良かった。2日目の分科会でのアイスブレイクに加え、早速職場で実践しました。	<p>「太田ステージと～」これは私自身の勉強不足もありますが、太田ステージ自体を理解していなかったため、太田ステージの理解を前提とした内容だったため、(部分部分は理解・得心がいったが)最後まで良くわからず、理解不足故に生かせなかったと思う。</p> <p>TEACCHIは過分にテクニカルな内容で、こちらも概観的に捉えることが出来なかった。</p>	<p>長瀬先生:「ABA」講義での動画・写真が理解の助けとなったのであれば、嬉しい限りです。これを導入として、その背景にある理論へと。</p> <p>武藤先生:短時間で太田ステージを全部説明しきれませんでした。「認知発達という見方で利用者さんの世界を理解する視点がある」ということを知っていただき、更に学んでいただきたいと思っています。</p>

2013年度自閉症セミナー フォローアップ アンケート

職種	セミナー各講座の中で、現場に生かすことのできた内容にはどののうなものがあるか	なかなか実践に生かすことが難しいとすれば、どのような理由が考えられるか	講師コメント
主任	<p>窓ガラスを割るので格子と飛散防止シートの検討に入った。帰宅に(大泉学園-池袋)園を出てから2~3,4時間かかっていますが何かを試す前に薬の量は変えずに飲む回数を増やしたことで眠気が持続するのか多少のこだわりをすませるとまっすぐ帰宅するようになり以前のように20時、21時まで園付近をうろつくことがなくなりました。</p>	<p>ご本人のこだわりがいつどこで発生するのかわからないものもあります。先日は前からきた自転車を突然突き倒し苦情がきました。日頃のこだわりとは全くちがうものが発生した場合、それがこだわりへと変化しないよう配慮をします。日頃のこだわりについてもご本人わかってもやってしまうのでその気持ちを抑えることは困難です。</p>	<p><b>武藤先生:</b> いけない事とは分かっているけど、衝動的に行動してしまうのですね。どの位の発達段階の方なのでしょう。薬の飲み方を変えてみた後の自転車の突き倒しなのでしょう。それ以前のことでしょうか？衝動性に関しては薬の調整も一つの手立てになり得ますよね。</p>
主任指導員	<p>2日目の事例研究に取り上げていただき、その時に講師の方にアドバイスしていただいた支援方法をそのまま取り組んで、実際に効果を上げることができました。</p>	<p>ABAにしてもTEACCHIにしても基礎的な理論はわかるのだが、実際にどのように現場で使って良いかわからないことがある。また、上手いかなかった時の修正のやり方がわからないことがある。さらに実践的なステップアップ講座を企画していただけるのなら、ぜひとも参加したいです。よろしくお願いします。</p>	<p><b>長瀬先生:</b> まずは、実践。とにかくやってみられることです。エラーからたくさん学ぶべき点が見えてきます。 <b>武藤先生:</b> そうですね。実行に移すときに戸惑いを感じるのかもしれませんが。実践している施設を見学されることも理解を高めることになるかもしれません。</p>